



YOSHIDA Sakura

IWANAGA Ryoichiro

KOJIMA Takuya

SATO Keiko

DATEKI Sumito

YAMAGISHI Toshitsugu

特集

この先生に 教わりたい!

Vol.

4



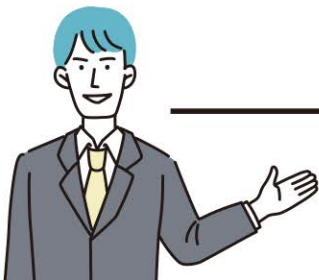
長崎大学には10学部1,000人以上の先生が在籍しており、
それぞれが情熱を持って研究や教育に取り組んでいます。

シリーズ第4弾となる今回の特集では、
全学部・学科の12人の先生にインタビュー。

研究の面白さや授業に対するこだわりなど
語っていただいたお話から、大学ならではの多様な学びが見えてくるでしょう。

そしてまた、来年春の大学合格を目指す皆さんにとって
指針になるような言葉も見つかるかもしれません。

冊子としては、今回が最終号となるChoho。
先生方の言葉を通じて長崎大学の魅力をお伝えします。



PROFESSORS OF
NAGASAKI UNIVERSITY

※誌面で紹介している皆さんには、撮影時のみマスクを外していただきました。



CUPCHAK David

KONDO Chieko

YOSHIDA Mamoru

KIM Hee-Jin

KITAMURA Fumito

HEMMI Hidetaka

教 教育学部の必修科目である教育原理論と道徳教育論を担当している山岸利次准教授は、二〇二〇年秋に着任したばかりです。

「履修者が多いので、時節柄、自動的にリモート授業となりました。学生の皆さんとはまだしっかり対面していませんですよ。私の専門は、教育哲学・教育思想史、そして教育法。「法」は方法（メソッド）ではなくて法律のことです。もともと体罰やいじめの問題に関心があって、国連の『子どもの権利条約』に関する民間の代替的報告書の作成や、いじめ防止対策推進法が定める第三者委員会によるいじめ調査にも関わってきました」。

教育学部でも哲学や思想史、法律などを学ぶとは、意外です。でも確かに、これから教員になる人は、学校の現場でトラブルが起こったらどうしよう、訴えられたら大変だ、という不安を抱えているかもしれません。

「学校の先生になりたいと思う学生の多くは、きっと良い教育経験を積んできていてほしい。しかし、実際の現場ではさまざまなことが起こります。今の教育制度の下で困難を抱え、苦しんでいる子どもがいるのも事実。そうした子どもたちの思いを知るには、一度自分の教育観を崩し、新たにつくり直す必要があります。講義のオリエンテーションで必ず話すのが『今の学校教育を必然だと思うな』ということ。

日 本語を母語としない人たちに日本語を教える方法を研究しているのが小島卓也助教です。

「一般教養でも理系の学生に『日本、世界での日本語教育』の講義を行っています。看護師候補生や技能実習生として来日した外国の方の苦勞や夢、日本語が海外でどう見られ、どういう価値を持っているかといったことを語ると、皆さん刺激になるようです。外国人の友達ができたら、まずは『日本語を教えてください』となりますよね。そんな時、例えば『お父さんは〇〇をした』と、『お父さんが〇〇をした』の、『は』と『が』の使い分けを説明できますか」。

違和感はあるけども、説明となると、「学ぶ側は客観的な説明を求め、納得して初めて覚えてくれます。なぜその言葉を使うのか。そこにどんな意味があるのか。言葉の成り立ちを知らなければ教えることができないのです。多文化社会学部では、国内外で英語を使って活躍したいという学生が多い中、学生たちは『日本語』教育の授業にも熱心に取り組んでくれます。授業では日本語の教え方を学び、実際に外国の方々に教えるわけですが、私の場合は『少し学んで、実践して、振り返って』を繰り返します。最も効果的な方法を探り、新しいアイデアを取り入れた『実験』を重ねるのです。先日の実習では、実習生が、学び始めて間もない日本語学習者をあえてグループ

哲学や思想史が柔軟な教育観を養う

日本語が海外への扉を開く鍵となる



2021年に出版した教育基本法の解説書(左・学陽書房、共著)と、学位論文執筆のために読み込んだ19世紀の道徳統計についての思想書。



「教育っていったい何だ?」

「教育っていったい何だ?」と考えるようになったのは、男子学生は全員丸刈り、体罰は当たり前という管理教育を受けた中学時代。写真は、その頃の「山岸少年」です。

私は前任校で看護学部の教職科目を教えていました。養護教諭の養成に携わっていましたが、そういったキャリアも役立てたいですね。保健室から見る子どもの姿は、教室とは違います。教育問題のフロントラインに立ち、苦しんでいる子どものSOSを受け止める取り組みは、近年ますます活発になっています。



コロナ禍の教育実習。実習生が海外の学生に向けて行ったリモート授業では、感染対策やお互いの声の重なりを避けるため間隔を開けて座っても、上手に力を合わせました。



日本語学習者の評価を議論する様子。「学生に向かって知識を一方的に伝えるのではなく、私は学生と同じ方向を向いて一緒に考えることを大切にしています」と小島先生(左から2番目)。

実習生の中から今年度2人が国際交流基金の日本語パートナーズの選考に合格。国家の公務で海外渡航するための公用旅券を持ち、東南アジア等の現地の学校で8か月ほど日本語教育に取り組みます。

「偶有性 (contingency)」という言葉を使い、他の教育も取りうることを伝えます。

「じゃあ他の教育制度って?」と想像力を飛ばしたかせるために用いるのが、他国の教育制度と比較すること、教育の歴史を知ること、そして思想家の作品を読むことです。今ある教育の姿から自由になって「教育とはどうあるべきか」を考えるための講義だと話します。すごく大風呂敷なだけども「笑」。

専門科目の教え方ではなく、根本的な教育への取り組み方ですね。

「考えてみると、子どもにとって学校とは学び場であるだけではなく、一日の大半を過ごす場所でもあります。子どもたちの居場所を確保するため、また、しっかりと人間関係を築くために学校の先生ができることは何なのか。格差や子どもの貧困などが問題視される中で、目の前の子どもの状況に合わせて対応できる、柔軟な教育観を身に付けてほしい。それが私の目的です」。

新しいタイプの日本語教育なんです。新しいタイプは「つながる言葉」。実は、海外の日本語教育者はマイノリティで孤独です。そんな中で孤軍奮闘するよりも、周囲の協力を得ることで前に進めます。中国の方は漢字が得意だけれど濁音などの聞き取りが苦手、韓国の方は文法や発音が母語に近いので上達しやすい、欧米系の方は少々間違ってもとにかく話すなど、相手の特徴に合わせて上達方法を組み合わせるのも有効です。クラスが多国籍であれば、お互いの得意な面を生かして上達する環境をつくることもできます。日本語教育者は、ある種の外交官とも言われます。日本国内でも国外でも、日本に興味を持つ人々に対する窓口や、最前線の役割を担うことになるからです。言ってみれば日本語は、海外への扉を開く鍵なのです」。

教育学部
山岸利次 准教授

東京大学教育学部卒業。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士(教育学)。長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科専任講師、宮城大学看護学部准教授を経て、2020年に長崎大学に兼任。専門は、教育哲学、教育思想史、教育法。

講義 教育原理論(教育2年)/道徳教育論(教育3年)/教育哲学(教育1~4年)/教育原理(全学・教職課程)

YAMAGISHI Toshitsugu

多文化社会学部
小島卓也 助教

オーストラリアのニューサウスウェールズ大学でPh.D.を取得。在学中はDean's Student Leadership Awards 2017 Academic Excellence Leadershipなど多数の賞を受賞。オーストラリアのマッコーリー大学での非常勤講師、イタリアのヴェネツィア・カフネスカリ大学でのポスドクフェローを経て、2021年より長崎大学に兼任。

講義 日本語指導法(多文化3年)/日本語教育実習(多文化3年)/日本、世界での日本語教育(教養教育)/応用言語学入門(多文化2年)他

KOJIMA Takuya

この先生に教わりたい!

この先生に教わりたい!

岩 永竜一郎教授は、作業療法学の中でも発達障害児のリハビリテーションに関する研究や人材育成など、幅広い分野で活躍。また、長崎大学子どもの心の医療・教育センターの副センター長を務め、教育機関への訪問支援や専門職を対象にしたトレーニングの講義にも力を注いでいます。そもそも発達障害の分野で、作業療法士はどのような役割を担っているのでしょうか。

「発達障害のお子さんには、教師、保育士、医師、保健師、言語聴覚士など、さまざまな専門家が支援に当たります。作業療法士もその一員として、主に感覚や運動の面から介入します。全体で見ると発達障害を専門としている作業療法士はレアな状況ですが、長崎大学の保健学科は発達系の授業や実習が充実していることで、発達領域に進む卒業生の比率は、全国の作業療法士養成校の中でトップなんです。」

発達障害では、早期発見がその後の改善につながると聞きます。

「そうですね。特に自閉症のおさんは、二歳ごろから治療を始めると効果が見られますし、症状が軽くなる確率が高くなります。一定の検査ステップを踏んで支援につなげていきますが、以前よりもグレーゾーンのお子さんが増えてきたため、より正確に評価できるツールが求められ

子どもたちが生きやすい社会をつくるために



この日、保健学科内で発達障害のお子さんご家族にトレーニングを実施。岩永先生が子どもたちと一緒に遊びながら自然にトレーニングをします。



おもちゃを使って手先の動作がスムーズになるよう促していきます。

作業療法士の分野は主に、身体障害、精神障害、発達障害の3つ。全国の養成校の中でも発達系の実習を必修にしているのは、本学の保健学科作業療法学専攻が唯一ではないでしょうか。

「発達障害は、社会適応におけるさまざまな問題につながっていくため、一人の専門職の支援のみで子どもたちを育てていくことは困難です。引きこもりや貧困、虐待など、社会で起きている問題は発達障害と関連しているケースが少なくありません。私は、発達障害の方々が生きやすい社会をつくることを大きな目標としています。興味を持ってくれる学生が増えてくれるような仕事をしてくれる卒業生たちが頑張っています。とてもうれしいですね。」



医学部保健学科

岩永竜一郎 教授

長崎大学大学院歯薬学総合研究科(博士課程)修了。茨城県立医療大学助手を経て、長崎大学に前任。平成28年より、長崎大学大学院歯薬学総合研究科教授、長崎大学子どもの心の医療・教育センター副センター長。

講義

発達障害作業治療学(保健3年) / 発達障害支援特論(保健3年) / 治療作業学(保健2年)他

IWANAGA Ryoichiro

長 崎大学病院の小児科に勤務する伊達木澄人准教授は、小児内分泌代謝が専門。外来・入院診療と研究活動に取り組んでいます。

「小児内分泌代謝には、低身長などの成長障害や甲状腺の病気、糖尿病、骨系統疾患、代謝性疾患など、さまざまな病気が含まれます。患者さんの幅は広く、何万人に一人の希少疾患を持っている方も少なくありません。通常の診察に加えて、遺伝子解析などの検査を行うと診断し、病態を明らかにしていきます。」

遺伝子解析技術は向上しているのですか。

「この十年でかなり向上し、多くの遺伝子を網羅的に調べられるようになってきました。また、保険適用の対象疾患も増えてきています。二年前に臨床遺伝専門医という資格を取得したのは、遺伝カウンセリングを通じて、遺伝子検査に関する患者さんご家族の不安や疑問に対応するためでもあります。しかし、最新技術をもってしても原因を解明できない疾患が多々あるのが現状です。例えば、私が医師になって初めて担当した患者さんは先天性の下垂体機能低下症という病気を持って生まれてきましたが、二十年以上経った現在もその原因は分かっていません。」

いずれにしても、診断をつけることが大切なのではないでしょうか。

「そうですね。診断がつけば新しい治

日々進化する遺伝子解析と診断技術



診療の合間を縫って研究に励む伊達木先生。海外では、顔写真を用いてAIによる希少疾患診断が行われています。この技術が日本人にも有効かどうか検証を進めています。



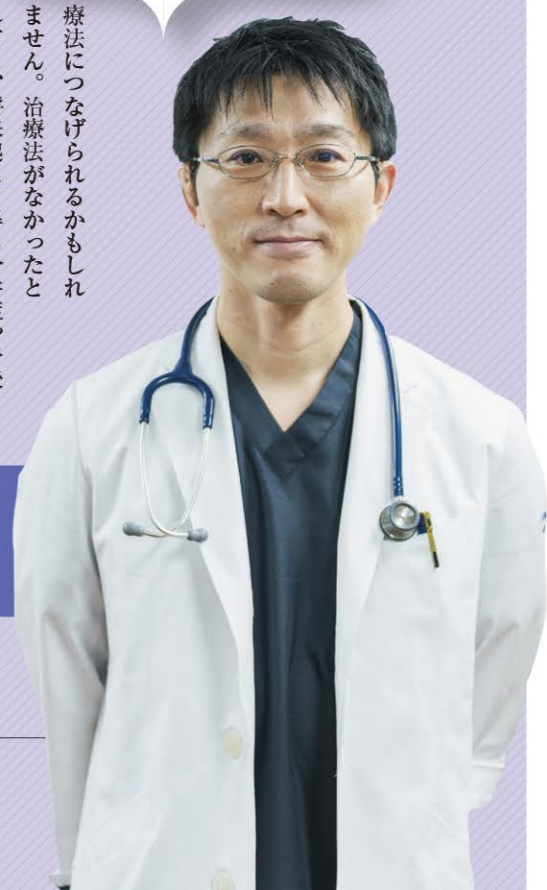
伊達木先生が主治医を務める秋山大輝さん(2007年5月撮影)。骨が折れやすい「骨形成不全症」という疾患を持って生まれてきました。15歳に成長した現在も、伊達木先生の診察を受けています。

遺伝子解析から明らかになることはたくさんあります。まれな病気であったとしても、しっかり診断をつけて、健康管理に役立てることが目標です。信頼関係を築いて患者さんに寄り添える、やりがいのある仕事です。

療法につなげられるかもしれませんが、治療法がなかったとしても、将来起こり得る合併症や予後といった情報を得られます。患者さんご本人やご家族にとって安心材料になるのです。一般的に小児科の対象年齢は中学校卒業頃までと言われますが、私の場合は長いお付き合いになる方が多いですね。より多くの治療法や健康管理を実現できるように、診療時の発見を研究につなげ、そこで得た知見をフィードバックしていきたいです。」

医師を目指す学生の心にも響きそうな話です。

「小児科は幅が広く、限られた時間ですべてを伝えるのはなかなか難しいですね。興味を持ってもらえるよう、症例ベースで話すようにはしています。保健学科や歯学部、教育学部でも講座を持っているんですよ。教育学部では保育士を目指す皆さんに、見逃してはいけない子どもの病気や、教育現場で気付けることなど、栄養の観点から講義を行っています。」



医学部医学科

伊達木澄人 准教授

長崎大学医学部卒業後、長崎大学病院小児科に勤務。研修医時代の経験から内分泌代謝に関心を持つ。国立成育医療研究センター研究所で国内留学や米国留学などを経験。

講義

小児系講義(医学3年) / 隣接医学II(小児科学)(歯学・薬学3年) / こどもの栄養(教育2年)他

DATEKI Sumito

この先生に教わりたい!

この先生に教わりたい!

「今」 年から創設された「下村脩博士記念薬学部研究奨励賞」の栄えある第一回目の受賞者となった吉田さくら助教。昨年は日本薬学会環境・衛生部会の部会賞も受賞した、若手のホープなのです。

「光栄です。昨年、国際共同研究強化の科学研究費に採択されたこともあって、評価していただいたのでしょうか。先生が所属する衛生化学研究室のことから紹介してください。

「薬学部というと薬のことだけ研究しているように思われがちですが、衛生化学は、食品や環境から体に入ってくるあらゆる化学物質が体によいような影響を及ぼすかを研究する分野です。研究室の教授は大気中の環境汚染物質をテーマにしていますし、私は金属の元素「Se(セレン)」を学生の頃から十四年以上研究しています。

十四年以上一つの物質を研究するなんて、よっぽど魅力的なものなんですね。「はい、とても面白い物質です。セレンは土壌中にもあって、小麦などから摂取されます。日本の場合魚介類からの摂取が多いと報告されています。微量ですが、不足するといろいろな病気になる、体になくならない元素です。しかし、いろいろな構造を作っていて、その形によって体の中の動きが異なり、金属のようでも非金属のようでもあります。周期表を見ると分かるのですが、セレンの上に硫黄が

分析技術の進歩で、謎は深まるばかり



実験に使用する試薬を調製している吉田先生。



研究室の教員や学生の所在を示すマグネットボードは、なんと周期表でできています。オリジナルで制作されました。先生のテーマであるセレン(Se)はしっかり赤い文字です。

私は魚介類に入っているセレンがどういう形をしているかも調べています。だからまずは煮干しやカツオのだしをピーカーで作るところから始まるんですよ。微量のセレンを化学物質の性質によって分けられる機械にかけて分析します。

あって、二つは同じ属なので性質がよく似ています。ところが、硫黄は体の中にたくさんあるけれど、セレンは微量。それでも生命はちゃんと二つを見分けて使っており、その仕組みも気になります。

セレンの話になると止まらなくなる吉田先生。そういった元素と体の関係は、まだまだ分からないことがたくさんあるのです。

「分析技術が進んだことでごく微量の物質も見つけられるようになりましたが、それらの構造や機能など、謎もまた深まります。でもその謎を解明することで、いろいろな病気との関係性が見えてきて、人の体に有用な知識となります。その解明のためにも、同じ道を選び、共に研究する学生が増えてくるといいですね。」

予防薬学とも言われる衛生薬学。薬とは違う別の視点で人の健康に貢献する吉田先生のような研究者が、より多く必要とされています。

薬学部
吉田さくら 助教

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科生命薬科学専攻博士後期課程修了。博士(薬学)。2012年4月から2014年3月まで厚生労働省福岡検疫所食品監視課に勤務。その後、2014年に長崎大学に着任。同年より現職。専門は衛生化学。

講義 衛生薬学I, II(薬学1・2年) / ヘルスサイエンス特論(医歯薬学総合研究科生命薬科学専攻博士前期課程1・2年) / クスリの科学(教養教育1・2年)他

YOSHIDA Sakura

「医」 歯薬学総合研究科の佐藤啓子准教授は、フロンティア口腔科学分野に所属。数ある微生物の中でも菌周病菌について研究しています。「菌周病は世界中に蔓延していて、感染者数の多い病気として知られています。私たちの口の中にはおよそ五百〜七百種類もの菌が存在し、そのうちどの菌が菌周病の原因となるのかはある程度判明しています。ただし詳しいメカニズムはまだ分かかっておらず、菌が体に害を及ぼす物質をどのように生み出すのか、その仕組みを私は調べたいです。」

歯学部と聞くと、将来は歯科医師へと進む方が多いイメージですが、先生はもともと研究職を目指していたのでしょうか。

「それがまったく考えていなくて、大学時代も基礎講座より臨床実習を好んでいましたね。ただ、勤務医として長期間働く前に何か違うことをしてみようと思い、大学院から研究の道に進んで、今に至ります。研究は私の性格にも合っていたんだと思います。自分のやり方がそのまま結果として返ってくる手応えがありますし、研究を続ける中でいろいろな場所に赴いて専門家の方と交流できるので、視野が広がります。」

現在の研究分野を選んだきっかけはありますか。

「もともと小さい生き物に興味があり

菌周病のメカニズムを探究する



顕微鏡を使って微生物を調べて、その病原因子を分析します。「実験に必要な時間はさまざまですけど、何時間も地道に作業することが珍しくありません」と佐藤先生。



プレバート上のサンプルをチェックして、実験の準備を行います。サンプルは染色した上で、顕微鏡で検査してデータを分析します。

好奇心を原動力に、何度も試行錯誤を繰り返せるのが研究の面白さです。さまざまな講義を受けながら、自分が興味を持てる分野を見つけましょう。

ました。最初は微生物の中でも単細胞なら割と自由に何でもできるんじゃないかと甘く考えていたんです。それが実際に研究を進めると、非常に複雑な仕組みで一筋縄ではいきません。一つの細胞で生き残り、分裂して遺伝情報をつないで、環境の変化にも適応する。調べるほど奥の深い生物だと感じました。」

学生に指導する上で心掛けていることを教えてください。

「研究作業の中で、最初に興味を持った作業を一つ身に付けてもらうようにしています。生物の培養や遺伝子操作を行うのが好きな学生もいれば、顕微鏡などの機器を使うのが好きな学生もいます。何か一つでも好きな作業があることで、学内や学会で発表したり、他の人の発表に興味を持ったり、それをきっかけに興味広がってくるといいなと思います。私はそのお手伝いをしていきたいです。」

歯学部
佐藤啓子 准教授

九州大学歯学部を卒業後、臨床講座に所属。歯科医院にて勤務。その後、長崎大学歯学部大学院を修了。愛知学院大学歯学部微生物学講座、長崎大学口腔病原微生物学講座を経て現在に至る。

講義 口腔生化学(歯学3年) / 細胞生物学入門(歯学1年) / 微生物学(薬学1年) / 初年次セミナー(歯学1年)

SATO Keiko

この先生に教わりたい!

この先生に教わりたい!

私 たちの生活になくはならないエアコンですが、地球温暖化への影響も注目されています。機械工学コースの近藤智恵子教授は、エアコンの心臓部であるヒートポンプ内で血液のようにエネルギーを輸送する作動流体について研究しています。「物質の性質によって、温暖化に及ぼす影響は異なります。私の研究室では、より少ないエネルギー消費で高い温度調節効果を得られる作動流体を研究しています。温度は上げるよりも下げることが多く、エネルギーを必要とします。エアコンだけではなく、例えば食品の保存や半導体の製造、医薬品の輸送の際にも冷やす技術は必要で、目に見えない場所でも多くのエネルギーが消費されています。温暖化の進行を元に戻すのは難しいですが、少しでも緩和するために世界中の研究者と協力しています」。

どのような研究活動を行っているのでしょうか。

「さまざまな物質を精密測定し、作動流体として適した性質を探っていきます。実験装置は学生が中心となって部品を組み合わせたものです。細かな部分に粗が目立ちますが（笑）、測定結果の精度はトップクラスで、実際に計測した値が世界的標準データとして収録されているとあります。すごいことをしているんだと学生に話すとすけど、どうも実感がないのか、反応は

職 場のコミュニケーションにおける問題を経営学的に分析し解決策を導き出すのが、辺見英貴助教の研究内容。会議の場で上司に意見しづらい。特定のメンバーだけで話し合いが進む。そんな誰しも思い当たる経験がテーマとなります。

「専門は組織行動論という研究分野で、主に企業におけるコミュニケーション、その中でも上司と部下の関係性や発言に着目しています。経営と聞くと、お金や数字が真っ先に思い浮かぶかもしれませんが、組織内での人の動きや連携は非常に重要な要素です。いわゆる空気を読んだ発言ばかりする職場や、水を差す発言ばかりする職場は、果たして健全な状態でしょうか。円滑なコミュニケーションや働きやすい関係性が、企業の利益にもつながります」。

企業だけではなく、いろいろな組織に応用できそうな研究内容ですね。

「学生の場合、サークルの先輩や、アルバイト先の社会人との関係に置き換えるとイメージしやすいと思います。私自身、大学時代のゼミやサークルの話し合いの場で、同じ人ばかり発言する状況に違和感を覚えた経験が、組織行動論に興味を持つきっかけとなりました。まだ直接的に講義で取り上げる機会は少ないですが、学生が具体的にイメージしやすい例を用いて解説するように心がけています」。

コロナ禍でリモートワークやオンライン

環境負荷の少ない物質を精密調査

職場内のコミュニケーションを分析する



近藤研究室で学ぶ学生たち。大学院に進んで研究を継続する学生が多く、互いに気心の知れた仲。近藤先生曰く、のほほんとした穏やかな学生が多いそう。



研究指導は細かいデータの扱い方が中心で、あくまで学生のペースを尊重。時には一緒に悩みながら、試行錯誤を繰り返していきます。

一つの実験に数ヵ月かかることも珍しくなく、何度も測定を繰り返すのは根気のいる作業です。だからこそ、適度に息抜きしながら、みんなで気軽に意見を交わして試行錯誤できる研究室の雰囲気重要だと思います。



実際に企業の話合いの場に参加するなどして、どのようなコミュニケーションが行われているのか調査。インタビューやアンケートを駆使して、異なる立場の社員がそれぞれどんな課題を感じているのか探っていきます。「長崎には老舗企業が多くあるので、今後はその特徴を捉えた分析ができればと思います」と辺見先生。

コミュニケーションの課題は、人との相性や性格のみに左右されると考えがちです。いったんそこから離れて、組織行動論としてアカデミックに分析することが、新たな解決方法を導き出すことにつながります。

イン会議が普及しましたが、社内のコミュニケーションに及ぼす影響はいかがですか。

「非対面の会話が増える中で、これまで何気ない雑談の中で打ち明けることができた悩みを、なかなか表に出せないケースがあります。在宅勤務が続くと、企業という組織に所属する意味を見失いがちで、上司と部下の関係性も希薄になる可能性があります。新たな研究テーマとして今後取り組みたいです」。

この春からはご自身のゼミ生を担当されるそうですが、どんなゼミ活動を予定していますか。

「実際に長崎の企業と連携しながら、組織内のコミュニケーションについて質的な分析を進めていく予定です。ゼミ活動の中で、メンバー同士がうまくいかず、時には衝突するようなトラブルが起こったりすることもありますが、それ自体がある意味では狙いというか、ゼミという組織の中で、コミュニケーションの課題をどう解決していくのか、学生と一緒に考えていきたいです」。

薄いですね。ただ私としては、難しいことを難しいと学生に思わせないことも大事だと思っています」。

研究室はとも和やかですかね。

「私あまり先生らしくないせいもあるけど、自由な学生ばかりです。でも真面目に研究をコツコツ進めてくれて、先輩が後輩の面倒を見る良い関係性が自然とできています。新しい研究をする中で、失敗はつきものです。そこで悩むことも大切ですが、嫌になっただけ投げ出すのもったいないですね。互いに励まし合いながら、楽しく研究を進められたらと思います」。

近藤先生は大学院を卒業後、一度は企業に就職したそうですね。

「エアコンの設計開発部門に所属していました。自分が携わった商品で多くの人が快適に過ごせるというやりがいがありました。誰も知らないことを知りたいという気持ちの方が強くなり、研究者の道に進みました。研究室の学生にも、新しい発見をする楽しさを感じてほしいです」。

工学部
近藤智恵子 教授

同志社大学工学研究科修了後、日立アプライアンス株式会社入社。九州大学総合理工学部博士課程修了。退社後、イリノイ大学機械工学部客員研究員、九州大学特任助教を経て長崎大学工学部准教授に就任。2019年より現職。

講義 熱力学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ(工学2年) / 伝熱学(工学3年)

KONDO Chieko

経済学部
辺見英貴 助教

北海学園大学経営学部卒業。神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了。博士(経営学)。2021年より現職。

講義 企業論A(経済2・3年) / 企業論特講(経済学研究科博士前期課程1・2年)
企業論B(経済2・3年) / 中小企業論(経済3・4年)

HEMMI Hidetaka

この先生に教わりたい!

この先生に教わりたい!

「いくつかありますが、例えば、増養殖現場では動物プランクトンが仔魚を育てるための餌料として使われており、効率的に量産できる方法を探っています。既存の方法では、動物プランクトンの餌となる植物プランクトンの培養に時間がかかったり購入単価が高かったりして経費がかさむため、代替となる再生飼料に着目しています。他には、温暖化や海洋酸性化、マイクロプラスチックといった環境問題が動物プランクトンに及ぼす影響についても研究しています。研究室ではプランクトンのストック培養を行い、さまざまな実験に活用しています。小さいのでスペースを取らず異なる実験を同時進行できますし、寿命が短いため親と子

「動物プランクトンは、海中の物質循環やエネルギーの流れに影響を与えるだけでなく、多くの幼生生物の餌となる役割を果たしています。肉眼では見えにくい小さな生物なのに、まさに身を以てして海を育む、母のようなたくましさに魅力を感じます」。

動物プランクトンを対象とした研究とは、具体的にどのようなテーマですか？

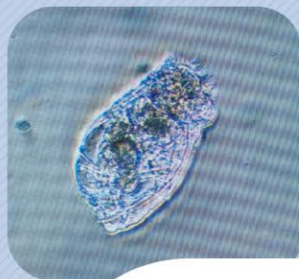
「国・釜山出身の金禧珍准教授は、海に囲まれた環境で育ちました。大好きな海や、その生態系を支える動物プランクトンの魅力に気が付いてからは、たくさんの論文を読み、勉強に励んだそうです」。

韓

海を守るプランクトンに魅せられて



研究室に在籍する学生とは和やかな雰囲気。学生が編み出した解釈に耳を傾け、実験方法をアドバイスするなど、コミュニケーションを大切にしています。



マイクロプラスチックを与えた動物プランクトンを顕微鏡で観察。マイクロプラスチックが緑色に光ることによって、体内のどの部分に蓄積されているのかが分かります。「粒径や濃度によりますが、ほとんどは排出されます。しかし、暴露時間が長くなると蓄積されて、その影響が出てきます」と金先生。

授業や研究を通じて、動物プランクトンの魅力が多くの人に伝われば、環境保全にもつながるはず。外国の学生から、共に学びたいという声も届いています。

「学生とはコミュニケーションを取りたいと思っていますが、一方的に発信するだけでは難しいので、終盤にクイズを取り入れるようにしています。専用のWebサイトに課題し、学生はパソコンやスマートフォンで回答するという方法です。授業をきちんと理解できているかの確認や復習になりますし、楽しみなが集中してくれます。これからも続けていきたいです」。

他にも、一年次の教養科目にグループワークを取り入れるなど、工夫を凝らした授業を展開しているそうです。

「人はどうしても過去の経験に左右されてしまいがちです。怖い目に合うと次に備えようと思いがちですが、大丈夫だろうと考えた場合には次も大丈夫だろうと考えたままの傾向があります。経験に代わるものは何か。難しい問題なのですが、時に自分を媒介にして事例を伝え、また、マイハザードマップの作成など地域住民と協働しながら、地道にコミュニケーションを図っていくしかないのかなと考えています」。

現地調査には、学生が同行することもありますか？

「研究室の学生には、必ず現地へ足を運ぶよう指導します。災害を新聞や報道だけから理解することには限界があります。実際の現場には丸ごとの問題があつて、自分たちが着目していなかった課題に気づかされる場合も多いです。現地での学びやコミュニケーションは、災害に対する意識の変容だけでなく、学生が社会性を身に着けるためにも貴重な機会であると考えています」。

水産学部

金 禧珍 准教授

韓国・釜山出身。韓国釜慶大学卒業。韓国国立水産科学院インターン研究員勤務。その後、長崎大学大学院生産科学研究科海洋生産科学専攻修了。博士(水産学)。長崎大学水産学部ポスドク研究員を経て、2018年に長崎大学に着任。同年より現職。

講義

海洋環境科学概論(水産1年) / 海洋環境科学実験II(水産2年) / 生物環境学(水産3年) / 海のマイクロ生物(教養教育1年)他

KIM Hee-Jin

「自然災害の脅威から、どのように命を守っていけばよいのか、大学で専門的に学びたいと考える人が増えてきました。吉田護准教授は地域防災の専門家です。これまで数多くの被災地へ向かい、被災者の声に耳を傾けてきました」。

「近年では令和二年の球磨川豪雨や平成二十九年の九州北部豪雨の被災地に入つて、インタビューやアンケートを実施しました。被災地で得られる生の声やデータから実際に現場で起きたことを明らかにすることを通じて、災害に対する当事者意識を醸成し、備えや避難行動を促すための政策の提案やその実践を展開することを目指しています」。

防災・減災に対する意識にどうアプローチするのか、その方法を考えておられるのですか？

「はい。もともと私は土木工学を学んでいましたが、堤防などの社会基盤の整備だけでは災害からの人的な被害がなかなか減らないことを学びました。もちろん、社会基盤の役割は大きいのですが、想定を超える自然の脅威からは私たちが守ってはいけません。災害に対する当事者意識をもつていけば、人は自ずと備え、いざというときに「逃げる」という行動選択につながるかと考えています」。

危機感を感じる度合いは人それぞれで、変えるのは容易ではなさそうですね。

自

経験に頼らず“逃げる”意識改革



平成29年に発生した九州北部豪雨災害の被災地区。地域で自主避難所を事前に検討していました。また、令和2年の球磨川の氾濫では住民同士の呼びかけにより人的被害を免れた事例も。



熊本県阿蘇市の内牧地区は洪水常襲地区。マイハザードマップを作成し各世帯に配布しました。

行政機関などから発令される情報のみでは、災害発生時の避難行動に限界があることが分かっています。どのような方法が効果的であるのか、地域によってもさまざまです。被災地で得た情報をもとに検証を進めています。

「人はどうしても過去の経験に左右されてしまいがちです。怖い目に合うと次に備えようと思いがちですが、大丈夫だろうと考えた場合には次も大丈夫だろうと考えたままの傾向があります。経験に代わるものは何か。難しい問題なのですが、時に自分を媒介にして事例を伝え、また、マイハザードマップの作成など地域住民と協働しながら、地道にコミュニケーションを図っていくしかないのかなと考えています」。

現地調査には、学生が同行することもありますか？

「研究室の学生には、必ず現地へ足を運ぶよう指導します。災害を新聞や報道だけから理解することには限界があります。実際の現場には丸ごとの問題があつて、自分たちが着目していなかった課題に気づかされる場合も多いです。現地での学びやコミュニケーションは、災害に対する意識の変容だけでなく、学生が社会性を身に着けるためにも貴重な機会であると考えています」。

環境科学部

吉田 護 准教授

京都市工学部地球工学科卒業、工学研究科都市社会工学専攻修士課程修了、情報学研究科社会情報学専攻博士課程修了。博士(情報学)取得。京都大学特定助教、熊本大学特任准教授を経て、2016年長崎大学に着任。現職。

講義

地域環境概論(環境1年) / 環境政策学II(環境3年) / 環境統計学(環境3年)他

YOSHIDA Mamoru

長 崎大学は外国語教育に力を入れており、その基幹的役割を担っているのが言語教育研究センターです。カブチャック・デビッド助教は、同センターの教員として二〇一七年九月に着任。先生は英語教授法「TESOL」の資格を持つ英語教育の専門家です。一方的に発信するのではなく学生中心の双方向の授業を展開しているそうですが、どのようなスタイルなのでしょう。

「ストーリーテリングの授業では、例えば、男の人が乗っていた船が遭難し、生き残るために何を必要があったのかという物語を、私が英語で話します。まずストーリーの九十パーセントを伝えたら、次は学生が同じ内容の物語を原稿が無い状態で伝えます。その後、結末がどうなるのか学生が英語でディスカッションします。このような流れの中で論理的思考力が鍛えられ、単語や文法も自然に理解できるようになるのです。ストーリーテリングには、物語を介することで話し手と聞き手の気持ちつながり、言語を学ぶ際に使われる脳の部分以外の部分も活性化される作用があります。そのため、言語を習得する力もアップします」。

他には、どのようなスタイルを取り入れていますか。

「コラボレーター・ノートテイキングと呼ばれる、二人で同時にノートを

高度なアクティブラーニングを軸にした学習戦略



授業にはニュース、新聞記事、YouTubeなどを教材に生きた英語を取り入れています。



パートナーと一緒にノートを取りながら行うリスニングの授業。リスニング力と共に、集中力や自発性が養われます。

第二言語を学ぶ時、どんなに優秀な人でも間違えることはあります。間違っても大丈夫なんだと、安心して学べる場を提供することを心掛けています。あのクラスへ学びに行きたいと思ってもらえる環境をつくっていききたいですね。

取るリスニング法があります。大学の講義やプレゼンテーション動画などを見ながらパートナーと一緒にリスニングを行うのですが、パソコン上で共同編集できるソフトを使い、お互いどんな風にノートを取っているのか見比べることが出来ます。何か行動しながらの方が集中力も上がり、学びに対して積極的になれるんですよ。外国語の習得には能動的な態度が必要です」。

英語のスキルを生かして活躍できる学生が増えてほしいですね。

「そうですね。ただし私が教えられる期間に限られており、授業が終わった後すぐにグローバルな社会へ出られるわけではありません。一人であつても、自信を持って続けられる学習戦略を身に付けさせてあげたいと思っています。そうすればいつか、グローバルな社会で活躍できる日が来るはずですよ」。

言語教育研究センター
カブチャック・デビッド 助教

米国ミシガン州アナーバー出身。東ミシガン大学で地理の学位を取得。その後、英語教育を学ぶためハワイバシフィック大学へ進学。修士課程修了。米国政府によるプロジェクト「イングリッシュランゲージフェロー」の派遣講師を経て、2017年より現職。

講義 英語コミュニケーションI(多文化・環境1年) / 英語コミュニケーションII(多文化・工学1年) / Reading and Discussion(多文化1年)他

CUPCHAK David

情 報データ科学部の特微的な講義の一つが、学生が企業や自治体と協力しながら課題の解決を目指す実社会課題解決プロジェクト。北村史助教は指導内容の設計や、事業者と学生をつなぐ立場として携わっています。

「データの分析やプログラミングなど、学外の事業者の方と一緒に中長期のスパンで挑む課題は、本物の課題であり、社会的な実践です。そうした外に開かれた学びは、学生にとって貴重な機会となるはずです。授業を通して何かを達成することも大切ですが、自分に足りない部分や何が分からないのか気付くきっかけにしてほしいと考えています。情報データ科学部は多彩な専門分野の教員が指導しているため、分からないことはどんどん質問してほしいですし、学びへの前向きな姿勢を身に付けてほしいですね」。

学生がチームで課題に取り組み中で、どのようなアドバイスをされていますか。

「自分の役割というのは、チームのメンバーとの関係性で決まるものです。リーダー役が得意だから偉いわけではないし、人の意見をフォローし続ければよいわけでもありません。チームが前に進むための最善の役割を探してほしいと思います。情報を調べるのが得意とか、誰も気付かない問題点を指摘できるとか、そういうのも立派な役割

何が分からないのかに気付く機会を提供



グループごとに企業や自治体と連携しながら課題解決を目指す実社会課題解決プロジェクト。2年次までは必修科目で、3年次以降は選択科目となります。



「どうアドバイスすれば学生たちの議論が盛り上がるのか、指導方法について常に考えています」と語る北村先生。学生が自ら課題に気付く過程を大切にしています。

医療や交通、観光、通信など、データを扱う領域は幅広く、情報データ科学部で学んだ知識はさまざまな分野で生かすことができます。学外の事業者と積極的に交流する中で、その手応えや、自分が関心を持っている分野を見つけてほしいです。

です。また、「コミュニケーション」が高いとか低いとか言いますが、コミュニケーションには人それぞれの方法があります。自分らしい方法で相互にちゃんと関わり合っているかが重要です」。

以前から北村先生はコミュニケーションについて研究しているそうですね。

「長年取り組んできたのは芸術系のワークショップで、アーティストと子どもが関わることで互いにどのような影響を及ぼすのか、創造性が生まれるのかを研究しています。情報データ科学部らしくはないかもしれませんが、人との関わり合いの中での学びや成長というテーマで考えると、実社会課題解決プロジェクトにも多くの共通点があります。いずれにせよ、学生と双方向で意見を交わし、一緒に考える授業が自分に合っているというか。今後も授業の中で、学生自らスイッチが入り本気になれるのを後押しできればと思います」。

情報データ科学部
北村 史 助教

早稲田大学人間科学部卒業。同大学院人間科学研究科博士課程単位取得退学。同大学院助手を経て2015年より長崎大学教育イノベーションセンターに兼任。2021年より現職。

講義 実社会課題解決プロジェクトA、B、C、D(情報データ科学1~4年) / 芸術活動と社会(教養教育) / 身体関係論(教養教育)

KITAMURA Fumito

この先生に教わりたい!

この先生に教わりたい!